

## 編集室から

今月のニュースを編集している頃、鳥取では大変な大雪に見舞われているとの報が…。幸い、石川県地域はそれほどの降雪も無く、相変わらず事務所駐車場周りの除雪は、ここ数年しなくても済んでいます。事務所のある地域は、金沢の中でも豪雪(?)地帯で、以前は四駆でなければ、朝に車を動かすことができなかつたほど。それがここ数年は、パツタリです。

富山県では、西部の高岡・氷見辺りがやや多く、石川県では、能登・白山麓が多目、加賀は少な目。といった感じでしょうか。

何度も指摘していますが、地球温暖化という名の気候激変化のせいで、今季の雪も局所豪雪になっている模様です。

危機感無く大都市周辺からやってきて、突然の豪雪に出遭い、身動きができなくなる…。そんな運転手もいたかも知れませんが。何年か前、金沢でも、たった1台の夏タイヤの大型トラックが主国道の高架坂を上れずに、全車線をふさぎ、これが原因で次々と大渋滞を巻き起こして都市交通が完全麻痺した苦い経験があります。

当日、大渋滞ラインの都心側に居た自分は、異様に閑散としている街を見て何が遭ったのか戸惑いましたが、その只中だった県庁・議会では事態に議事が大紛糾したと後で聞きました。

リスク管理のお話を差し上げる際、最大のリスクは「それがリスクであることを認識できないこと」と申し上げています。「1台位夏タイヤでも走れるだろう」が、まさか都市交通を完全に麻痺させるとは自覚できないからこそ、この事態が引き起こされました。

つぶやき欄で触れたサピエンス全史には、「自覚なきリスク」というより「進化・進歩という名の暴走」が自らの存在をも危うくする高確率な可能性で締めくくられています。そうはならない警鐘としなければなりません。(は)



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登の夜市」の姉妹店を開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

もちろん、川畠さんご自身もお店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00~24:00

金曜17:00~28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3

ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2017/02

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2017/02

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

## 如 月



安宅住吉神社 (小松市) にて  
by hama

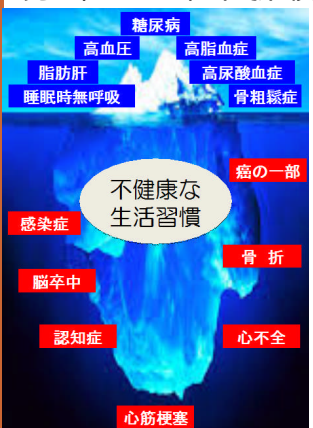
## 寄稿 『体と心の生活習慣病』その三

麻田総合病院・糖尿病センター 井垣 俊郎

前回は、糖尿病がヒトに十年早く、「老い」と「病い」をもたらすこと、そして現代医学のおかげで「死」が「病い」から遠ざかっているため、糖尿病は長い時間「病い」で苦しむ人生の原因になっている、という話をしました。

「病い」という言葉は、もともと苦痛や不快感を伴う状態に使われてきました。しかし科学技術の進歩により、まだ苦痛や不快感を生じる前から、それらに直結する異常をかなり正確に知ることができるようになりました。それが血糖や血圧やコレステロールなどの数値であり、超音波やCTなどで得られる画像です。それらの意味合いは、冰山を使ったイメージで説明されます。図を見てください。糖尿病や高脂血症などは、数値として評価しやすい、水面上に見えている山の部分です。この山だけでは、よほど重症にならない限り症状を伴うことはありません。本物の冰山を考えれば明らかのように、問題になるのは水面下に潜む大きさも形も判らない部分です。この部分

が、ある日突然、脳梗塞や心筋梗塞や骨折などの形で、苦痛や不快感や時として致命的にもなる障害を生じさせるわけです。水面上に見える山の高さは、水面下の見



えない危険の大きさを推測させる目安にしか過ぎません。ちなみに、水面上にある山の中心は、どうやら糖尿病のようです。糖尿病の山が高いと周囲にある高脂血症や高血圧の山も引きずられるように高くなるし、糖尿病が良くなるような生活習慣を身につけると裾野も低くなっていくからです。そして、このイメージ図が示している最も大切なこと、それは薬物治療とは水面上の山を削る程度のものでしかなく、不健康な生活習慣を改善しない限り水面下に潜む危険を解消することはできない、という点です。

もちろん、薬剤を使った治療が全く無意味だと言うつもりはありません。例えば、高脂血症は心筋梗塞にとつて最大の危険因子ですが、日本人によって発見され近い将来に必ずノーベル賞の対象になるであろうと言われているHMG還元酵素阻害剤（通称スタチン）は、殆どのヒトで悪玉（LDL）コレステロールを目標値まで低下させることが可能なので、副作用も極めて稀という素晴らしい薬剤です。しかし、このスタチンの力をもってしても、心筋梗塞は三十%前後しか減らすことができません。残りの七十%を担っているのは、喫煙・肥満・塩分過多・飲酒過多・野菜不足・運動不足・偏食・ストレス他。そして高血糖や高血圧であり、それでも説明のつかない部分を我々医療者は老化や体質と呼んでいます。

（続く）



【プロフィール】

（いがき としお）金沢大学北浜寮で、濱さんの2年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松で又クヌクしています。

## 濱のつばやき 『賢い人（一）』

ヒトを学名ではホモ・サピエンスという。意味は、「賢いヒト」である。臆面もなく自身にこのような学名を付けている生物が、とうの昔に違憲とし、途上国の政治家に人種差別的であると批判してきたにも関わらず、自らの国の代表に時代錯誤的人物を選出してしまった歴史的事実を後世のサピエンスたちは「賢い」と評価するのだろうか。

知人からの勧めで「サピエンス全史」上・下巻を読んだ。

本書は、まがいなく問題の書である。読者に相当な覚悟を求めることになる。西洋文学に特有のまどろっこしい言いまわし迷路を掻き分け、真意を読み解く必要があるのは訳書であるが故に致し方ないとしても、科学者としての著者が繰り出す数々の冷徹な歴史評価は、しばしば読む者の心をえぐる。

しかし、著者によって喚起される読者の感情こそ、実は読者の意識の中に無自覚に形成されてしまった時代的価値観に気づかせてくれる地雷だ。思わず頷いてしまうフレーズは判りやすいが、逆の場合は感情に飲まれてしまいやすいため、それと気づくのが難しくなる。つまり、著しく気分が悪くなるか、思わず「そんな筈はない！」と叫んでいるかの心理状態

で、その反応こそ、自らが確信的に死守している価値観を揺らがす物言いであるが故に生じているのだ」と気づくことが難しい。それがニンゲンの性である。

一方で、冷静に我を取り戻すと、科学者としての著者の真摯な姿勢に感服する。おそらく猛烈な批判・攻撃を受けるかもしれない可能性を想うと、それを超えてまで敢えて本書を発表した著者の深意に対して、軽々な批判は返って読者側の浅薄さを公言するようになる。

二百数十万年の間、ホモ・ネアンデルタールなど他の人類、つまりは兄弟・姉妹種に当たるホモ属（人類）と共に地球の片隅で生きてきたサピエンスたちが何故、一万三千年前に突然、他のホモ属を完全に失い、孤高の種族となったのか。約十萬年前、サピエンスが地球規模で移住を始めた途端、各大陸で悉く大型動物が絶滅し、生態系が激変したのか。その後、続く農業革命は、我々と地球に何をもたらしたのか。さらに後世、貨幣と帝国と宗教がもたらしたもの。アジアが主勢であった当時、世界の片隅の西欧が後に世界制覇した理由：科学と資本主義と帝国の連携（その根底には、何ともサピエンスらしい動機が横たわっている）。それらが連なる現代世界の問題に留まらず、筆は、近未来にまで及ぶ。（つづく）

浮き草のごとく66 福井県立大学 地域経済研究所 江川 誠一  
『 評価関数は名人の読みを超えるのか ~ 見えたら終わり ~ 』

世界で最もユーザーが多い囲碁対局サイト「野狐囲碁」。正月早々、ここに彗星の如く現れ、破竹の60連勝を飾るやつがいた。  
雑魚相手の60局ではない。早碁（持ち時間の短いルール）ながら、このサイトに出没する日中韓のトップ棋士<sup>1</sup>をことごとく退けている。  
その名は、ハンドルネーム「Master」。詳細が誰からも明かされないまま、様々な憶測が飛び交っていた。無双を誇るこいつはいったい誰だ？  
正体はAlphaGoだった。約1年前に、韓国のイ・セドル九段を4勝1敗で退けたGoogle DeepMind社のAI。しかし、この5番勝負の完敗を経ても、人類が完全に敗北したとは、まだ誰も断言できなかった。イ・セドルの変調、AIの思わぬ弱点（水平線効果等）の露呈、もっと強い人類代表がいること…。だが、実際にMasterと対峙した日中韓のトップ棋士の発言を拾うと、結論は明らかだった。

「囲碁というゲームにおいて、AIの評価関数は名人の読みを超えた」

この60連勝で、短期間におけるAlphaGoからMasterへの飛躍的な進化が証明された。将棋に引き続き囲碁においても、「人類 vs. AI」という構図にはもはや面白みがなくなったのだ。

まだ、ポーカーでは人類に分があるらしい。そして単純な運だけのゲームでは、AIが勝ちきることは永遠に難しいだろう。理屈っぽいゲームほど、理屈っぽいやつほど、AIには勝てなくなる未来。

知らない強者と碁を打ち将棋を指す度胸はあるが、ポーカーは友達としかしたことがない。馬券は買わないこともないが、宝くじはまず買わない。そんな私にとって、本シリーズに書き足すことはもうない。実はAIの思考法の変遷とか、最新のディープラーニング、囲碁におけるモンテカルロ法の仕組み等について、いろいろネタは仕入れ済み。まだまだ書くことはあると思っていた。

でもこれで先は見えた。興味が尽きたので、このシリーズは

「完」

とさせて頂く。（別タイトルで再開する可能性はあるかも^^）

注1：中国の柯潔九段、韓国の朴廷桓九段、日本の井山裕太6冠など。いずれも各国のナンバーワンと言っている存在である。

『 僕はノマドワーカーなのか？ 』  
株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

最近新聞でもテレビでも『ノマド』という言葉をよく見聞きします。遊牧民という意味の言葉ですが、IT機器を駆使してオフィスだけでなく様々な場所で仕事をする新しいワークスタイルを指す言葉として使われています。そういう私も店での仕事以外ではノマドワーカーの一人です。大体毎日のスケジュールですが

9時 自転車で片道15分の恵比寿の店に出勤

9時～11時 ランチの仕込み

11時～14時 ランチ業務～後片付け

14時～19時 ノマドタイム（打ち合わせ/各種企画作り/インプット）

19時30分 帰宅

という感じです。

14時～19時のこの4時間が僕にとって重要な知的生産の時間です。この原稿を書いている今もそうです。ただ僕はカフェといったおしゃれなスポットではなく、ネットカフェ（一昔前の漫画喫茶）なんです。完全な個室で会話に邪魔されませんし、何よりドリンクが呑み放題というのがいいんです。値段は5時間で平均1,800円というところでしょうか。カフェだとコーヒー一杯で6時間は粘れませんが、気兼ねせずに集中できる環境のための費用としては適切かなと思っています。平日のお昼過ぎあたりは僕みたいな中年の男性が結構ネットカフェにいるんですね。大半は仕事をさぼっているスーツ姿の方なのですが(笑)。

そんな私のネットカフェでのノマド生活における必需品は、

- ・B5サイズPC：これがないと漫画読むしかありません。設置されているPCではセキュリティ面でリスクもありますし。
- ・wifiルーター：店によっては無料wifiあるところも多いですが、やはりリスクも高いので。
- ・充電器：長い時は6時間くらいいるので充電器は必須
- ・マイクッション：椅子の背もたれと背中の方に小さいクッションを挟むと快適です。
- ・老眼鏡：この一年で急激に衰えが。。。
- ・耳栓：基本会話をする人はいないのですが、時に隣室からセクシービデオの音漏れがしていることもあって。

の6つです。

今後日本においてもダブルワークが認められる環境になります。そして私のようなノマドワーカーが増えることは明らかです。それによってまた新たな市場が誕生するでしょう。

仕事をする場

カフェやネットカフェではやはり本来目的とは異なることと、人同士の連携によってビジネスが生まれている現状を踏まえると月額2万円程度の対価で、空きオフィスや空室率の上昇が懸念されているマンションの空き部屋を好きな時に共同利用できる。

コミュニケーション

個人による各種クラウドサービスがどんどん活用され、異なるスキルを持つ人々が繋がり始めVR技術を使って、さも全員がその場にいるかのようなバーチャルミーティングも出てくるでしょう。

ワークスタイルの変化が新たな創造と需要を生み出す、企画屋としてはまだまだ老け込んでいられません(笑)。

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』ドバイへの旅 2016.12.23~28  
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

年末は一足早くオフに入ることにしている。今年はどこに行こうかと、この春就職する次女に尋ねた。静岡県からシンガポールに赴任している芦澤の顔が浮かんだ。空中にプールのあるマリーナ・ベイ・サンズに泊まってもみたい。でも次女は行ったことがないところにして欲しいとのこと。な、ならばかねてから気になっていたドバイはどうだい？お気に召したようで、親子で中東に飛ぶことにした。クロアチア以来の長距離の飛行になる、しかもトランジットもある。ならばビジネスクラスで行きたい。ネットで割安な商品は無いかと探したところ、あった。旅工房のビジネスクラスで行くドバイの旅、何と30万円！クロアチアでは観光のための移動に苦労したので、今回は現地ツアーなるものがあることに気づき、ホテルへの送迎つきのツアーをいくつか頼んだ。所謂、着地型旅行商品って言う奴だ。

予約した航空会社はドバイのエミレーツではなく、カタール航空。なんだと思いきや、機材、サービスともに素晴らしかった。クロアチアに行った時のターキッシュエアラインズのビジネスクラスよりも上だった。英国のスカイトラックス社が世界中の旅行者を対象にした顧客満足度調査によれば1位エミレーツ航空、2位カタール航空、3位シンガポール航空、4位キャセイパシフィック、5位ANAと続く。ちなみにターキッシュエアラインズは7位、JALは21位だ。

東京から京成急行バス、片道1000円。ネット予約すれば900円。これをしておかないと席があるか不安なままバス停に並ぶことになる。当然、予約が優先だからだ。コツは予約時刻の前のバスに間に合った場合には席があれば乗車できるから、余裕を持った予約がいい。1時間で第2ターミナルに着いた。予約しておいたWi-Fiルーターを借り、宅配で送っておいたスーツケースを取りカタール航空のチェックインカウンター、ビジネスクラスは並ばず、すぐにできる。JALラウンジが利用できた。機内食は飛び立った後、一時間ほどで出てくるから、軽めの食事に生ビール、スパークリングワイン、日本酒をいただき、ほろ酔いぎみで22時出発の飛行機に向かった。

期待通りの座席だ。完全にフラットになるシート、これにはマッサージ、離着時の体勢に一気に戻せる機能もついている。アメニティグッズを入れた袋はアルマーニ、香水まで入っ



ていた。さらに、パジャマの用意まであることには驚いた、もちろん客の体に合わせたサイズを持ってきてくれる。ただ、流石の小生でも外人仕様のXLは大きすぎた。飛行機の中でパジャマに着替える人は皆無、お土産に頂いた。その大きすぎるサイズに気づいたのは買ってからのことだ。メニューリストには「お好きな料理をお好きな時間にご注文いただけます。」と書かれていた。枝豆とミントのスープ、テーブルと呼ばれる、トマト、パセリ、玉ねぎ、ミントをみじん切りして、レモン汁をかけたサラダ、カレーこれにミニのナンが付いていて、最初に出されたパンもあり、すでにお腹が満たされた状態、メインに頼んだのがマサバの味噌袖庵焼きでご飯の上に乗って出されてきた。なかなか美味しい。完食、このあと出されてきたチーズプレートは頼んだことを後悔した。もう食べられない。デザートはグルメアイスクリームでフィニッシュ。ワインリストも写真入り。二つ目に頼んだのはデザートワインで甘く、料理に合わない。口直しに白ワインを頼み、おしまいとした。食前に出された赤のスパークリングワイン、次女が頼んだ絞ったマンゴージュースいずれも美味、未体験の味だった。行きは日本食を頼んだ方がいいかもしれない。こちらは和食懐石になっている。帰りの便に和食は無いだろうから。朝食は和食にしよう。(帰りの分に和食はあった)

シートをベットに代えて眠りに着くことにした。出発してから10時間、トイレに行く途中に歯磨き、髭反り用品も用意されている。さて、朝食。鮭の照り焼き山椒風味をメインに蟹入り卵焼き、ニシンの昆布巻きそして味噌汁が並ぶ。美味しくいただいた。メニューには軽食としてにぎり寿司と巻き寿司とあるが、胃袋が受け付けない。帰りの便には無いだろうな、またの機会があることを祈ることにした。12時間のフライトを経て間もなくドーハだ。面倒を見てくれたアラブの彼女が挨拶に来てくれた「あなた方をおもてなしできて、とても楽しかった」。うーんと唸る。(つづく)

